熊本県立荒尾支援学校進路便り７月号②　NO.28

わーく&らいふ

平成３０年７月１３日　　進路指導部　発行

■ＣＯＮＴＥＮＴＳ■

★Ａ面　連載「キャリア教育基礎講座①」～夏休みはチャンス！～
★Ｂ面　連載「福祉基礎講座②」いろいろな福祉サービス①生活介護

連載「キャリア教育基礎講座①」

～夏休みはチャンス！～

もうすぐ夏休み。家庭や地域で過ごす４０日余りがスタートです。夏休み直前の進路だよりでは、毎年恒例の特集記事をお届けします。

◆夏休みはピンチ？チャンス？

「働く生活の準備は、まず家庭生活の充実から」と言われます。家族との時間が増える夏休みは、アイディアとリズムある生活、メリハリのある過ごし方等、目的のもちかた（もたせかた）次第では、ぐっと力をつけることができる時期ではないでしょうか。

右のスライドは、平成２８年度ハートフルシンポジウムの実践報告、卒業生Ｋ君のお母様の取組の一コマです。

平成２８年度ハートフルシンポジウム
～卒業生Ｋ君お母様の取組より～

★「手伝い」の取組と広がり
→きっかけは、夏休みの宿題
母も腹をくくって教え、４０日間で身についた成功体験。
手伝い（労働）と楽しみ（対価）の結びつけもできた。
→今では、自分のエリアの整理整頓は完璧。
担任もうらやむほど。
→たのまないことにも　広がり
兄の洗車を見て母の車を洗車。「あらったよ！」

◆長い目で取り組む良さ

小学生時代の夏休み、Ｋ君のお母様が４０日間かけて教えたことが、高校生の今につながっていることをお話になりました。

はじめは簡単なお手伝いだったことが、毎日の繰り返しの中でＫ君の家事として習慣化し、更には頼まれていないことまで（家族のために）やろうとする心の成長をもたらしているように感じます。

家庭での責任ある役割（家事）を果たすこと。また、そのことでほめられ、自分がやった結果が家族のために役立つことを実感することは、我々が考えるより大きな意味があると肝に銘じ夏休みを過ごしてみましょう。

ジョブコーチはお子様の事をよく知るご家族。楽しみながら取り組んでみてください。

◆まずは夏休みのスケジュール･目標づくりから

中学生以上になれば、お子様も交えた話し合いで目標と行動計画を作ることは、本校が大切にしている「決める力」を育むものと思います。

ここで気をつけたいのは「何か特別なこと」をさせなければと思わないことです。そうするとお互いとても疲れてしまいます。

いつもどおりに家族と同じ時間に起床して、一連の家事（ゴミ出しカレンダーに合わせてゴミ出し、新聞を取る、朝ご飯の支度、片付け、洗い物、掃除・洗濯等々）を家族と一緒にやる。つまり、本人以外の家族が様々に受け持っている「家事業」を一緒にやってみてはいかがでしょうか。

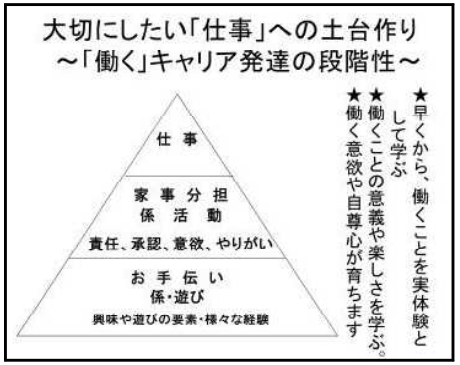
１日のスケジュールややることが決まれば自然と「メリハリ」のある生活になるはずですね。

ここまでのまとめ

★まずは、一日の暮らし方(スケジュール)を話し合いましょう。
※「規則正しさ」、「ほどよい運動」、「家事･手伝い」、「余暇の過ごし方」など
★仕事へつながるステップとしての家事･手伝いに取り組みましょう。

はたらく大人に育てるために。土台作りの大切さ。

★将来の仕事につながる活動は、家庭の中にたくさんあります。
★小さいうちは興味のある活動から始めましょう。
（ex 水遊びが好きなら米研ぎをする等）
★学部・学年が上がれば、大変でも、楽しいことを我慢してでも必ずやりとげる経験を積ませることも大切です。働くためには、「我慢する力」も、とても重要だからです。
★お手伝いや家事で培った力をベースにして、働く生活に向けた力が徐々についていきます。
（右のピラミッド構造図）



◆たくさんの種類のお手伝いを

楽しみながらの「お手伝い」で出来ることのレパートリーを広げましょう。

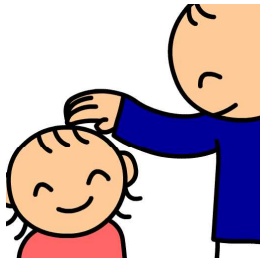
ただし焦りは禁物。家庭生活の長い時間は「味方」だと考えましょう。今できることは一つでも、学校生活１２年間では１２個教えられるのですから。

また、Ｋ君の成長からもわかるように、正しく教えたことは習慣化します。さらにことばの理解やその他の学習理解と相まって、予想以上の望ましい行動・成長につながることもあります。

◆人から教わる姿勢が育ちます。

手伝いを教わるということは、お手本を見て（注目行動）、真似をしながら（模倣行動）行動し、その時間を相手に合わせる（協調行動）ことを学ぶということです。このことは、学習のための重要なスキルですので、いろいろな事の基本です。また、教わる相手が、お母さんだったり、お父さんだったりときにはきょうだいだったりと、協調できる相手が変わることも大切な学びとなります。

◆人から認められることを実感できます



花梨の家わがんせの施設長宮崎さんは、家庭の機能の一つを「心の基地」と表現されました。「家庭は子どもにとって安心できる場であること。」「じっくり丁寧に話を聞き観察し、できたことを、できたぶん（大げさでもいいから）しっかり認め、ほめてあげましょう。」とお話になりました。家庭での手伝いは、まさに褒められる（人から認められる）機会を増やすことと言えます。

家族と一緒に決めたことをやり遂げる経験が責任感を育み、家族から認められることで、自分自身を肯定的に見ることが出来るようになります。

◆家事として任せてみましょう！

得意になったこと、任せても安心なことは、思い切って「家事」として任せてみましょう。本人にとっては、やり遂げたことへの満足感も格別です。

仕事をすることは、人から「任せられる」ということですので、我が子の何が強みで「任せられる」のかを知ることができますね。

◆お手伝いの報酬としてのお小遣い

家事とお小遣いの関係づけを、早い段階から行っておくことは、卒業後に働くモチベーションにつながっていく大事なことです。夏休み、「これをがんばったから、〇〇円のお小遣い」という取り組みも有効です。

ごほうびのあげ方にも、お子さんの実態に応じて工夫ができますね。毎回あげる方法、シール（トークンシステム）をためる方法、お小遣い日（給料日）を決めて社会生活に近づける方法等々でモチベーションを高め、たまったお金で更に楽しみな計画をたてることもいいでしょう。

しかし大切なのは、お小遣いをあげることだけではありません。「ありがとう！たすかったよ。」「きれいになって嬉しい。」など、家族の一員としての自分を意識できるように、感謝の気持ちをお子さんにわかる伝え方で伝えるようにしていくと良いですね。

連載 福祉基礎講座②
いろいろな福祉サービス①生活介護

６月号（ＮＯ．２６）の復習

本校卒業後に利用する福祉サービスは、障害者総合支援法で決められており、大きく分けて①介護給付②訓練等給付③地域生活支援事業の三つの種類があります。

わーく＆らいふでは、細かなサービスの内容についてシリーズでご紹介いたします。第１回目は介護給付のうちもっとも需要が多い「生活介護」です。

◆生活介護とは？

【概要】

自分の身の回りのこと（食事・トイレ・入浴などの日常生活動作）に多くお手伝い（支援）が必要な人が通所して、身の回りのお手伝いを受けながら日中を過ごす場です。

生活介護は、特別支援学校卒業生が一番多く利用する福祉サービスです。

【利用できる人は？】

どれくらいのお手伝いが必要かを表す「障がい支援区分」によって決められています。大まかに言うと、７段階ある支援度のうち、卒業時点で３以上の支援度がある方が利用できるサービスです。ですから、家のすぐ近くにある施設だからといって、お子さんが利用できるとは限らないのでご注意。なお、障害支援区分は、数字が増えるほど支援度が高く（重度）なります。

【生活介護事業所はどれくらいあるの？】

★有明圏域（２市４町）に１３あります。
★山鹿圏域に４あります。★熊本市（北区）に４あります。

【サービスの内容】

簡単な作業・創作活動・余暇活動・運動・入浴・リハビリなどですが、事業所によってそれぞれ特色ある活動をしています。

作業活動がメインの事業所では「工賃」支給がある場合もあります。詳しく知りたい方は、本校の福祉サービス事業所説明会にご参加頂くか、または担任を通じて進路指導部へお問い合わせください。

＜編集後記＞

福祉のことを、簡単にかつ、わかりやすくお伝えすることは案外難しく、行政がまとめた冊子等にもそのような編集は見られません。本校では保護者にできるだけわかりやすくお伝えしたいと考えておりますので、ご不明な点はどしどしお問い合わせください。（谷口）